

科目名	開講時期	必修・選択	科目区分	単位(時間)	科目責任者
基礎看護学方法論Ⅳ	2年次 前期	必修	講義	1単位(30時間)	野上 聡子 ※
授 業 概 要					
<p>看護とは対象者の健康問題に対する反応を診断し、その人あるいはその集団が置かれている状況の中で、積極的に対象者の健康に向けて働きかけることである。この看護実践の中核となるのが看護過程である。この看護過程のありようは、看護者の健康観・人間観及び看護観に大きく影響されるため、学生自身が自分の健康・人間・看護に対する考え方を再確認する必要がある。そのうえで看護における論理的思考について学び、自己の課題を明確にする。</p>					
到 達 目 標					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 論理的思考に基づく看護過程の考えたと構成要素を述べる。</li> <li>2. 各構成要素について説明する。</li> <li>3. 提示された事例について、対象の望ましい姿を考え、必要な看護を計画する。</li> <li>4. 計画に基づいて一場面を実施し評価する。</li> <li>5. 一連のプロセスが対象の健康レベルの向上につながる働きかけであったか振り返る。</li> </ol>					
回	学 習 内 容				担当教員
1-10	1. 問題解決思考				野上 聡子 ※
	2. 看護過程とは				
	1) 看護過程の概要				
	2) ヘンダーソンの看護理論				
	3. 看護過程展開のプロセス				
	1) アセスメント				
11-14	2) 看護診断				
	3) 計画立案				
	4) 実施				
	5) 評価				
	6) 記録				
	4. 日々の実施と評価				
	5. 看護計画の評価				
15	6. 看護過程の本質				
学 習 方 法					
<p>個人ワーク及びグループワークを行いながら思考の訓練をする。グループワークでは積極的に討議することで学生同士がお互いの思考力を伸ばすことになる。したがって各自の主體的な参加が不可欠である。主體的参加によって多くの疑問も生じるはずなので教員にも積極的に質問をするとよい。</p>					
評 価 方 法					
〔評価方法〕 科目修了試験 レポート					
先 修 科 目					
なし					
教 科 書、参 考 書					
〔教科書〕 新体系 看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 編集 深井喜代子 メジカルフレンド社					